

ボーダレス・アートギャラリーNO-MA

第3回滋賀県施設合同企画展

ing…～障害のある人の現在進行形～

今年で第3回目を迎える「ing…～障害のある人の現在進行形～」展は、滋賀県内の障害者施設18施設に加え、他県からも1施設含めた19施設の合同企画展です。

どの施設職員も、毎日を共に過ごし、時には心打たれる作品を作り出す施設利用者をみんなに紹介したくてうずうずしています。作品からみてとれる利用者の成長ぶりを喜んだり、作品と作者のギャップを楽しんだり、ただただ作品に心を奪われたりと、作品への思いは利用者への思いと切り離せない密な関係を持って取り組んでいます。そこで、その関係から一歩引き、客観的な視点を持ち、作品を作品展として世の中の人に認めてもらうにはどうすればいいのか？作品を世の中に出すということは作者である利用者にとって、また作品を観た人にとって、またその施設職員にとってどのような意味があるのか。たくさんの方の意見を議論し合い、作者にとって一番正しい作品の見せ方を探してみました。この思いは第1回目から変わることなく、施設職員研修の場としても機能し続けています。

日々生まれ続ける作品の数々を、より多くの皆様にご観覧いただき、障害のある人の造形活動の一端を知っていただく機会となればと願います。

● 開催期間

2007年3月24日（土）～2007年4月15日（日）

休館日：月曜日

開館時間：午前10時～午後5時

● 会場

ボーダレス・アートギャラリーNO-MA

滋賀県近江八幡市永原町上16

TEL・FAX 0748-36-5018

● 観覧料

一般200円 大高生150円 中学生以下無料

（ギャラリーの規定により、減免及び団体割引の適用あり）

● 主催

第3回滋賀県施設合同企画展「ing…～障害のある人の進行形～実行委員会
ボードレス・アートギャラリーNO-MA（滋賀県社会福祉事業団）

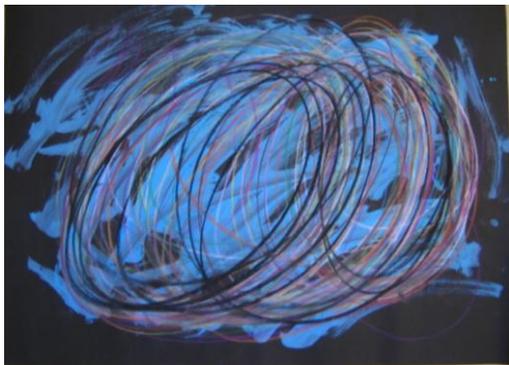
● 出展施設 19施設

あかね寮／近江学園／唐崎やよい作業所／きぬがさ作業所／湖北寮
さくらはうす・ひまわりはうす／信楽青年寮／社会就労センターあおぞら
社会就労センターこだま／ステップ広場ガル／大津はばたけ共同作業所
彦根学園／蛍の里／もみじ寮・あざみ寮／やまなみ工房／やまびこ作業所
（滋賀県） あおはにの家-萌あおはに（奈良県）

● お問い合わせ

ボードレス・アートギャラリーNO-MA
滋賀県近江八幡市永原上16
TEL・FAX 0748-36-5018
E-mail : plam-do5@hukusi-shiga.net
<http://www.hukusi-shiga.net/jigyoudan/>

● 出展者紹介



西野拓巳 nisijo takumi

1971生まれ

机の上で「何かしているな？」と思うと近づいてきて、面白そうにのぞき込む。「書いてみる？」と声を掛けられ、うんうんと頷く素振りを見せ、イスに座る。クレヨンを手にする、その瞬間から集中して書き始める。時々休憩して体をゆらし、また書く。彼が伝えたい事は何なのだろう。書いた後は「あっ」と伝え、どこか満足げな表情。褒めるといっそう笑顔になる。「次は何を？」と期待の表情で、職員を見つめる。（ステップ広場ガル）



光前充格 kouzen mitunori

1980年生まれ

アニメの雑誌や漫画の本に落書きをする。

人とうまくコミュニケーションがとれず、自分から話しかけることはほとんど無く、施設での作業への参加も数年かけて少しずつ増やしている最中だ。

そんな彼が昨年、何も描かれていない真っ白の画用紙に点々を描き始めた。

描いていく中で、点が線となったり、それがまた小さい点へと変化していったり。

今は描かれておらず、また本に落書きしている毎日だ。

…何が落書きで、何が絵なのだろうか。(信楽青年寮)



中橋博文 nakahashi hirofumi

1952年生まれ

人と会話する事やくらしを取り巻くものにとっても興味がある。

粘土に触れる時には、作品にエピソードを交えながら仕上げていく。

旅行先で乗った乗り物や、映画に出てきた怪獣など。

さかなの作品は水族館での思い出のようである。(もみじ・あざみ寮)



伊吹滋 ibuki shigeru

1959年生まれ

対象物が視覚的に捉えられないが、頭の中ではイメージが出来上がっている。あふれる発想は宝物なのだ。その発想を生かし、自らの世界を作り上げていく。無限に広がる世界に日々挑戦しているようだ。粘土に触れる指先に神経を集中させ、少しずつ丁寧に作品を仕上げていく。粘土に触れる喜び、物を作るたのしさを感じながら、自らを表現するかのよう作品に魂を込めていく。(彦根学園)



後藤 勝康 gotou katuyasu

1972年生まれ

現在、彼はあおはにの家に入所している。

彼には決まった生活パターンがあり、その中に新聞紙を細かく切る時間が所々にある。いつもと違ったことがある時には「もやもや、もやもや」と口にしながら、変更を受け入れることができない。そんな時には新聞紙を切ることで次第に落ち着くことができる。切った新聞紙は大事にビニル袋に入れられ、大切に引き出しへしまわれている。新聞紙を誰にも取られないように引き出しのつまみを外し、自分の空間の中で共存して生きているようでもある。(あおはにの家)

関連イベント

● ギャラリートーク&ワークショップ

日 時 2007年3月25日(日) 13:00~16:00

場 所 ボーダレスアートギャラリーNO-MAにて

プログラム 第1部 ギャラリートーク…出展者、各施設スタッフ

第2部ワークショップ…「大井の法則!描く・切る・コピーする」

第2回 ing 展の出展者であるやまびこ作業所に通う大井康弘さんに来ていただきます。大井さんの作風である、様々な素材をコラージュし、コピーして仕上げるといった技法を真似て作品の制作過程を体験します。

*お申し込みは下記のお問い合わせ先までご連絡下さい。

以上、今展についてご紹介いただけますようよろしくお願い申し上げます。
お問い合わせは下記までお願い致します。

滋賀県社会福祉事業団企画事業部 0748-75-8615

ボーダレス・アートギャラリーNO-MA 0748-36-5018

(担当 西原、森嶋、山之内)